

祭りを通して、地域のつながりを作ってほしい

昨年5月に「金谷茶まつり保存振興会」の会長に就任した木村さん。4月14・15日に開催された「第38回金谷茶まつり」では、会長として本部と各支部をまとめ上げました。

【絆を感じた地元の秋祭り】

木村さんが金谷茶まつりの会長を引き受けたのは、地元で培った経験から学んだことを金谷地域全体に生かす思いからだつたと振り返ります。

「地元の番生寺では、地区にある神社で毎年秋祭りが行われています。茶まつりほどではないですが、そこでも山車を引いたり出店を開いたりします。地元の祭りにも熱心に取り組む地区だったので、よき地域のつながりや絆を感じました。100軒ほどの



地区ですが、4年前には区長をやらせてもらうなど、地域活動に取り組んできました。住民一丸となり、行事に向き

合うことを意識するようになりましたね」

【つなぎ続ける祭りの力】

茶まつりに40年以上携わってきた木村さん。若い頃に先輩たちから継承した祭りの楽



金谷茶まつり保存振興会 会長
木村一男さん (番生寺)

しさや人との結び付きが、自分の根底にあると語ります。

「自分の地元である第5支部から、祭りに関わってきました。若い頃には、建築関係の仕事をしてきたことを買われて、屋台の屋根に登らせ

てもらいましたよ。やんちゃだったので、先輩たちにたしなめられたりもしましたが、祭りのしきたりや地元のことを教わりながら、その一員として成長してこれたんだと思っています。自分を形作ってくれ

てもらいましたよ。やんちゃだったので、先輩たちにたしなめられたりもしましたが、祭りのしきたりや地元のことを教わりながら、その一員として成長してこれたんだと思っています。自分を形作ってくれ

た祭りだからこそ、これからも若い人たちにつなげていきたいという気持ちです」

【金谷の良さを育む機会】
各支部でそれぞれ盛り上がる茶まつりも、根底には支部

を超えて地域全体の絆を深める部分があると、木村さんは疑いません。

「祭りや地元の活動が盛んな地区は、災害や緊急時にも協力できるとよく聞きます。祭りに向けて住民が一丸となり、終わっても仲良く付き合い、助け合う。若い世代の人たちには、祭りを通して結びつきや助け合いの精神も学んでいってほしいです。年々、参加人数が減っているといわれますが、茶まつりは金谷地区の誇り。中には市外に嫁いでも、祭りをしたくて家族で金谷に戻ってくる若者もいます。豆茶や子ども伝令など、小さい頃から参加できる催しがあるのも、次世代に祭りの魅力を伝えていくため。関わってくれた子どもたちが最終的に金谷に住み、大人に成長しても祭りに参加して、この地域の良さを守り育てていってほしいですね」

今年の大役を終えたばかりの木村さんですが、その目は既に今後の茶まつりを支える人、そして地域の未来を担う若者を見据えています。



金谷茶まつり前夜祭で、会長として茶娘大使を任命する木村さん

Shimadajin File #81

Story 島田人